



# 水谷山 寶青寺

「東照山」と号していましたが、江戸時代に水谷信濃守の祈願所としたことにより、「水谷山」に改めたといわれています。この度改築した第三ホールは大勢の方

「冗談」の中の仏教語  
「仏教修行に  
関係のない雑談」  
「冗談」は、「冗談もやすみやすみゆえ」とか、「冗談にもほどがある」、などと一般に使われています。「冗」という字は「暇」とか「無駄」という意味があります。つまり、「冗談」とは、どうでもよい話のことです。しかし、もともとは、仏教語だとされています。「冗談」とは最近のテレビでよくみられる人からかったり、傷つけたりするような、ふざけた話という意味とは、ちよつと違うようです。仏教では、「冗談」は、仏教修行に関係のない「雑談」を意味していました。また、日常のたわいなし話という意味で「常談」という言葉もありま

## お盆

七月十三日、盆迎え火  
七月十六日、盆送り火

俳人の正岡子規と向井去来はそれぞれ五蘭盆や 無縁の墓に 鳴く蛙 子規 魂棚の 奥なつかしや 親の顔 去来 と、お盆を俳句に詠んでいます。

お盆は、日本人にとつて欠くことの出来ない行事です。お盆に、当山では毎年、七月十四日十一時

より、お施餓鬼会の法要を厳修して集まり先祖の霊を供養しますが、施餓鬼会そのものは、特定の霊を供養するものではなく、先祖の霊はもとより、供養に恵まれない無縁さまをも供養するものでした。無縁さまとは子孫のとだえた仏さまのことです。日本人の場合、自分の先祖をたどつても、せいぜい六、七代まででしょう。つまり、それ以前の先祖は「無縁さま」として扱われているのです。そこでお施餓鬼の行事は概ね三界万霊、有縁、無縁の霊に飲食を与え供養しているのです。お施餓鬼は、自分自身に与えられてた生命に感謝し、長生きを願うという意味もありま



## 新施設・第三ホール

「水谷庵」オープン  
平成十四年四月八日に、住職の母親石井キミが行年八十歳で亡くなりまし

た。通夜・葬儀は故人を知っている檀信徒の方々へのお知らせのみで執り行われてきた。故人は本堂脇の玄關の向かいにある別棟に住んでおりましたが、その建物は師父が建てた事もあり、今後は、多目的に使用できるよう改築致しました。当山の山号は、最初、

「水谷庵」と命名致しました。「水谷庵」は日蓮宗の方々だけでなく、他宗の方々や近隣の方にも広く解放し、一人でも多くの方に風情のある場所として親しんで戴けるよう、庭や周辺も整備致しました。今後は、法事の後の会食や他宗の方の法要及び会食、又、家庭の延長としての家族葬や密葬の斎場として、更には、お茶会も出来るような設備も整えました。師父が遷化した今年十三回忌に当たります。この「水谷庵」の改築が師父の供養になればと考えています。どうぞ、皆様方の施設としてご愛用下さるようお願い致します。

## 三多摩組大会参加報告

平成十四年五月二十二日  
(水)、東郷寺(府中市清水ケ丘)において、立教開宗七五〇年慶讃法要が行われま

した。当日、十数名の方々の参加がありました。法話・琵琶の演奏の後の本堂での大法要は、四百人近い参加者が唱和し、大変荘厳な雰囲気のうち厳修され

た。今回来た方々は感激されたこと喜びの感想を述べていらつしました。今後色々な行事のご案内をさせて頂きますが、皆様には積極的なご参加をよろしく

## 秋川仏教会主催 団参旅行のお知らせ

十月二十八日(土)泊三日(当山よりバス利用)  
宝清寺が所属し、住職がの他、真言宗の「長谷寺」や副会長を務めている秋川仏「国分寺」も参拝を中心

に佐渡の金山・トキの森公園・尖閣湾揚島等を訪れる計画で、蓮聖人にゆかりの深い佐渡の費用は約五万円の予定です。旅を企画致しました。日蓮お寺の旅行は一般の旅行と聖人が他宗の僧と「塚原問答」をたたかわせ「開目抄」を著した場所であり、佐渡金山が最盛期だった慶長年代に山師味方但馬が寄進して建立された「根本寺」や県内唯一の五重塔(国重文)で知られるお寺であり、順徳上皇に供奉し、後に、阿仏房日得と

## 「冗談」

「冗談」は、「冗談もやすみやすみゆえ」とか、「冗談にもほどがある」、などと一般に使われています。「冗」という字は「暇」とか「無駄」という意味があります。つまり、「冗談」とは、どうでもよい話のことです。しかし、もともとは、仏教語だとされています。「冗談」とは最近のテレビでよくみられる人からかったり、傷つけたりするような、ふざけた話という意味とは、ちよつと違うようです。仏教では、「冗談」は、仏教修行に関係のない「雑談」を意味していました。また、日常のたわいなし話という意味で「常談」という言葉もありま

## 「冗談」

「冗談」は、「冗談もやすみやすみゆえ」とか、「冗談にもほどがある」、などと一般に使われています。「冗」という字は「暇」とか「無駄」という意味があります。つまり、「冗談」とは、どうでもよい話のことです。しかし、もともとは、仏教語だとされています。「冗談」とは最近のテレビでよくみられる人からかったり、傷つけたりするような、ふざけた話という意味とは、ちよつと違うようです。仏教では、「冗談」は、仏教修行に関係のない「雑談」を意味していました。また、日常のたわいなし話という意味で「常談」という言葉もありま

## 「冗談」

「冗談」は、「冗談もやすみやすみゆえ」とか、「冗談にもほどがある」、などと一般に使われています。「冗」という字は「暇」とか「無駄」という意味があります。つまり、「冗談」とは、どうでもよい話のことです。しかし、もともとは、仏教語だとされています。「冗談」とは最近のテレビでよくみられる人からかったり、傷つけたりするような、ふざけた話という意味とは、ちよつと違うようです。仏教では、「冗談」は、仏教修行に関係のない「雑談」を意味していました。また、日常のたわいなし話という意味で「常談」という言葉もありま